

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ ―― ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2014年度前期 開講講座

5月10日(土) 午後1時～

“戦争を知らない孫たち”の暴走

――安倍政権の系譜とその本質をあばく

講師＝額額 厚（山口大学教授）

1、安倍壊憲政権と対決するために

国鉄闘争の成果と教訓を継承し、粘り強く職場・生産点で労働者・労働組合が憲法運動を闘う。これを抜きに安部壊憲を阻止することはできません。壊憲NO！96条改憲反対 連絡会議は、96条先行改憲を阻止することに一定の役割を果たしました。HOWSは、この主旨に賛同し、ともに取り組んできました。4・18奥平教授公開講演会で二瓶共同代表は集まりの成功を踏まえ10月17日(金)・日比谷公会堂集会を行動提起しました。これに賛同して労働組合がよりいっそう協力・共同していくための講座を企画しました。多くの方の参加を呼びかけます。

① 5月17日(土) すっきり！わかる 集団的自衛権Q&A
講師＝浅井基文（国際問題研究者）

② 5月31日(土) いかなる改憲（解釈・立法・明文改憲）にも断固反対する
講師＝篠原義仁（自由法曹団団長）

③ 7月23日(水) 壊憲反対闘争における労働者・労働組合の位置
講師＝二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表）

④ 8月2日(土) 中国の台頭、米国の「アジア回帰」戦略と日本帝国主義 ―― 第2次安倍政権の対外政策を中心に
講師＝広野省三（編集者） 夏期セミナー

⑤ 8月4日(月) 安倍ブルジョワ独裁政権との対決 ―― われわれは急迫する壊憲策動とどう闘うべきか
講師＝新田 進（国際労働運動研究） 夏期セミナー

⑥ 9月27日(土) 若者がリアルに憲法を獲得するために ―― 若手活動家による憲法パネルディスカッション

2、労働者 前へ！

――闘いの基本は職場・生産点

安倍政権は、「日本を世界で一番企業が活動しやすい国」を目指す、と憲法が保障する生存権・労働権・労働三権（団結権・交渉権・争議権）を破壊し、労働者・人民をますます貧困へ追いやるろうとしている。また、労働者を安上がりで容易に解雇できるよるに「限定正社員」制度を新設し、労働者間にますますの分断と競争をもたらそうとしている。

私たち労働者が、まっとうに生きる道は、このような悪辣な政府・独占と闘うしかない。欺瞞的な「官製春闘」が行なわれた今春闘の中、二週間にわたってストライキを遂行した全港湾労働組合、三年間にわたって闘ってきたJAL不当解雇撤回裁判原告の方がたの闘いから共に学ぼう。

① 6月7日(土) 労働組合とストライキ(この講座のみ15時開始)
――14春闘での闘いをめぐって
講師＝伊藤彰信（全日本港湾労働組合委員長）
宮川敏一（元京成電鉄労組書記長）

② 7月2日(水) JAL不当解雇撤回裁判
――高裁判決をうけての闘いの展望
報告＝内田妙子（JAL不当解雇撤回裁判原告団 客乗団長）
柚木康子（不当解雇とたたかう日本航空労働者を「支える会」事務局長）

③ 9月24日(水) 拡大する限定正社員問題
――郵政現場に導入された新人事制度のなかで
報告＝沢木 勇（労働政策研究）
土田宏樹（J P 労組）

3、冷酷無比 ―― 安倍政権の反労働者政策

「労働時間の規制緩和」という名の無限労働の強要、「国家戦略特区」という名の解雇の自由制度の導入、「限定正社員」という名の正規職の非正規職化など、「冷酷無比」という言葉がぴったりな安倍政権の反労働者政策。苛酷な現場の実態を知り、こうした状況を変える道筋を講師とともに探し出そう！

① 5月28日(水) 激増させられる非正規労働者
――「15歳からの労働組合入門」の必要性
講師＝東海林 智（『毎日新聞』記者、「15歳からの労働組合入門」著者）

② 7月19日(土) ビデオ「過労死」の上映とワタミでの過労死問題
――いまま拡大する日本発世界共通語KAROSHI
報告＝須田光照（全国一般全国協議会東京東部労組書記長）

③ 9月13日(土) 教育反動化政策の狙いと現状
――教育労働者はこれとどう闘うべきか
報告＝中村美彦（千葉高教組書記長）
藤原 晃（神奈川高教組）

4、帝国主義の世界支配と反帝闘争の最前線

――資源と市場をめぐる激化する帝国主義間対立

ソ連解体の破壊作用は収まっていない。帝国主義陣営は、余勢を駆って新たな獲物求め、市場の拡張と資源の略奪をめざし、牙をむく。過去23年間、かれらは謀略のかぎりを尽くして社会主義ユーゴを消滅させ、反帝国主義の性格をもつ中東と北アフリカの民族国家を次々と攻略した。米・EUとロシアが対峙し、マスコミが「冷戦」の再現と騒ぎたてるウクライナ問題も、その延長線上にある。中南米では革命と反革命の激しいせめぎ合いがつづく。階級闘争の立場から現代世界を読み解く。

① 6月4日(水) ラテンアメリカ・カリブ海地域諸国民の闘いと変革への展望
――ベネズエラにおける革命と反革命を中心に
講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）

② 7月12日(土) ウクライナ問題の本質
――ロシア・ソ連の歴史を踏まえて考える
講師＝木村英亮（横浜国立大学名誉教授）

③ 8月3日(日) 中国社会主義のかかえる困難とその克服の道
――中国共産党18期3中全会を手掛かりに
講師＝山下勇男（社会主義理論研究） 夏期セミナー

④ 8月20日(水) グローバル企業（超国家企業）と国家
――資本が「国を選ぶ」時代をいかに闘うか
講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）

5、原発という棄民の構図

――核にしがみつくと国家権力の正体を暴く

ビキニ事件から60年。日本政府は米国からの原子力導入が最優先だったため、ビキニ被害に関する米国の責任を問わないまま200万ドルの慰謝料で手を引いた。第五福竜丸以外の漁船の被ばく補償は全くされなかった。

その後一貫して、原子力利権擁護を第一とし放射能被害の補償を最小限におさえる政策がとられている。福島第一原発事故後も政府、東電は被害を過小評価し、賠償を出し渋っている。3.11後、各地で新たに原発訴訟が起こされた。それらの動きをつかみ、反原発運動に生かしていこう。

被害者救済よりオリンピックが大事とばかり「アンダーコントロール」といつてのけた安倍首相、棄民の構図が見える。核を手にしたために、平気で被害者を切り捨て、周辺住民に事故のリスクを押し付け、幾世代先まで被ばく労働を強いる国家権力の正体を見抜こう。平和に生きる権利のために闘おう。

① 7月26日(土) ビキニ事件からフクシマを考える
講師＝木下昌明（映画評論家）／高橋省二（被爆二世）

② 7月30日(水) 脱原発をどうすすめるか
――地方自治体と裁判所をめぐる闘い
講師＝海渡雄一（弁護士）

③ 9月10日(水) 「コントロール」などされていない原発・復興
――東京オリンピック誘致の陰で
講師＝金野正晴（自営業）

6、日本の短編小説を読む

講師＝立野正裕（明治大学教授）

現代文学を代表する中編小説群のなかから四編を取り上げる。

これらはいずれも人生と社会の現実を直視した秀作ばかりであり、愛人、親子、夫婦から天皇制にいたるまで、人間の情と執着と絆に関わる諸問題とたじろぐことなく向き合い、深く掘り下げようとしている。

四人の作家たちそれぞれの粘り強い精神と想像力の格闘に、読者もじっくりと目を凝らしてみたい。

① 5月13日(火) 大西巨人作『地獄篇三部作』（光文社文庫）

② 6月24日(火) 谷崎潤一郎作『痴人の愛』（新潮文庫）

③ 7月15日(火) 志賀直哉作『和解』（新潮文庫）

④ 10月7日(火) 中野重治作『五勺の酒』（講談社文芸文庫）

HOWS講座カレンダー 2014年度前期（5月～10月）

5月10日(土) 開講講座「戦争を知らない孫たち」の暴走 ―― 安倍政権の系譜とその本質をあばく 講師＝額額 厚（山口大学教授）
5月13日(火) 日本の短編小説を読む ―― 大西巨人作『地獄篇三部作』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
5月17日(土) すっきり！わかる 集団的自衛権Q&A 講師＝浅井基文（国際問題研究者）
5月21日(水) 冤罪・再審の現在 ―― 取り調べ可視化と盗聴拡大 講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）
5月28日(水) 激増させられる非正規労働者 ―― 「15歳からの労働組合入門」の必要性 講師＝東海林 智（『毎日新聞』記者、「15歳からの労働組合入門」著者）
5月31日(土) いかなる改憲（解釈・立法・明文改憲）にも断固反対する 講師＝篠原義仁（自由法曹団団長）
6月4日(水) ラテンアメリカ・カリブ海地域諸国民の闘いと変革への展望 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）
6月7日(土) 労働組合とストライキ ―― 14春闘での闘いをめぐって 講師＝伊藤彰信（全港湾委員長）／宮川敏一（元京成電鉄労組書記長）
6月24日(火) 日本の短編小説を読む ―― 谷崎潤一郎作『痴人の愛』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
7月2日(水) JAL不当解雇撤回裁判 ―― 高裁判決をうけての闘いの展望 報告＝内田妙子（JAL不当解雇撤回裁判原告団 客乗団長） 柚木康子（不当解雇とたたかう日本航空労働者を「支える会」事務局長）
7月12日(土) ウクライナ問題の本質 ―― ロシア・ソ連の歴史を踏まえて考える 講師＝木村英亮（横浜国立大学名誉教授）
7月15日(火) 日本の短編小説を読む ―― 志賀直哉作『和解』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
7月19日(土) ビデオ「過労死」の上映とワタミでの過労死問題 ―― いまま拡大する日本発世界共通語KAROSHI 報告＝須田光照（全国一般全国協議会東京東部労組書記長）
7月23日(水) 壊憲反対闘争における労働者・労働組合の位置 講師＝二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表）
7月26日(土) ビキニ事件からフクシマを考える 講師＝木下昌明（映画評論家）／高橋省二（被爆二世）
7月30日(水) 脱原発をどうすすめるか ―― 地方自治体と裁判所をめぐる闘い 講師＝海渡雄一（弁護士）
8月2日(土) 中国の台頭、米国の「アジア回帰」戦略と日本帝国主義 ―― 第2次安倍政権の対外政策を中心に 講師＝広野省三（編集者） 夏期セミナー
8月3日(日) 中国社会主義のかかえる困難とその克服の道 ―― 中国共産党18期3中全会を手掛かりに 講師＝山下勇男（社会主義理論研究） 夏期セミナー
8月3日(日) (仮題) メディアにおける中国報道の歪み ―― 「普遍的価値」フレームから体制翼賛報道へ 講師＝高井潔司（桜美林大学教授） 夏期セミナー
8月4日(月) 安倍ブルジョワ独裁政権との対決 ―― われわれは急迫する壊憲策動とどう闘うべきか 講師＝新田 進（国際労働運動研究） 夏期セミナー
8月20日(水) グローバル企業（超国家企業）と国家 ―― 資本が「国を選ぶ」時代をいかに闘うか 講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
8月23日(土) 「フィールドワーク」靖国神社「遊就館」を訪れ、討論 案内＝内田雅敏（弁護士）
8月27日(水) プレヒト『ガリレイの生涯』をめぐって 講師＝井野茂雄（文化活動家）
8月30日(土) 国際社会が凝視する日本軍「慰安婦」問題と戦争責任 ―― 英オクスフォード大学の国際会議にVAWW-RACが参加して 講師＝中原道子（VAWW-RAC共同代表）
9月10日(水) 「コントロール」などされていない原発・復興 ―― 東京オリンピック誘致の陰で 講師＝金野正晴（自営業）
9月13日(土) 教育反動化政策の狙いと現状 ―― 教育労働者はこれとどう闘うべきか 報告＝中村美彦（千葉高教組書記長）／藤原 晃（神奈川高教組）
9月20日(土) 反戦川柳作家 鶴彬を語る 講師＝榎沢 健（文芸評論家）
9月24日(火) 拡大する限定正社員問題 ―― 郵政現場に導入された新人事制度のなかで 報告＝沢木 勇（労働政策研究）／土田宏樹（J P 労組）
9月27日(土) 若者がリアルに憲法を獲得するために ―― 若手活動家による憲法パネルディスカッション
10月7日(火) 日本の短編小説を読む ―― 中野重治作『五勺の酒』 講師＝立野正裕（明治大学教授）

7、HOWS文化講座

新しい科学の創始者として描かれた「ガリレイ」を、プレヒトはヒロシマ原爆投下後、権力に加担した犯罪者として改訂し、「科学の進歩」の前に科学者の責任の在り方を問うています。

戦争前夜、治安維持法違反で投獄され、29歳の若さで獄死した川柳作家鶴彬は、戦争に傾斜していく時代を風刺でもってえぐり出す優れた作品を残しています。

真実が覆い隠され、もの言わぬ時代の到来になりかねない「特定秘密保護法」の制定、憲法改悪に向かう今日の「危機の時代」における文化、芸術の在り方を、ともに考えていければと思います。

① 8月27日(水) プレヒト『ガリレイの生涯』をめぐって
講師＝井野茂雄（文化活動家）

② 9月20日(土) 反戦川柳作家 鶴彬を語る
講師＝榎沢 健（文芸評論家）

8、この人に聞く

① 5月21日(水) 冤罪・再審の現在
――取り調べ可視化と盗聴拡大

講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）

② 8月3日(日) (仮題) メディアにおける中国報道の歪み
――「普遍的価値」フレームから体制翼賛報道へ
講師＝高井潔司（桜美林大学教授） 夏期セミナー

③ 8月23日(土) 「フィールドワーク」
靖国神社「遊就館」を訪れ、討論
案内＝内田雅敏（弁護士）

④ 8月30日(土) 国際社会が凝視する日本軍「慰安婦」問題と戦争責任
――英オクスフォード大学での国際会議にVAWW-RACが参加して
講師＝中原道子（VAWW-RAC共同代表）

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。今期は、武井昭夫の仕事について1年間取り組みます。

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。

●これまでの制作・作品には、次のものがあります。

- 1) いま、私たちの労働現場から ―― グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 2) 私たちの戦争案内 ―― 急速に進行する戦争体制づくりに抗して戦争を止めよう！ ―― あなたも・日常から・世界の女性と共に
- 4) 戦争を止めよう！Ⅱ
- 5) いま、私たちの労働現場からⅡ
- 6) 私たちはどうい社会をつくりたいのか ―― 憲法改悪は誰のため？
- 7) 憲法改悪反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
- 8) 共闘こそ力！ ―― 壊憲を許すな
- 9) 先に起つのは君だ ―― 戦争・失業・貧困をなくそう
- 10) 憲法と原発 ―― 目を覚ませ！ 未来の世代のために
- 11) 不安だらけの未来はいらない
- 12) 利益優先の社会はいらない ―― 闘おう！ 未来のために
- 13) さし迫る壊憲の危機 ―― 知らなかったではすまされません
- 14) すでに始まっている戦争への道 ―― 私たちの戦争案内Ⅱ

《2014年度前期募集要項》

●定員 本科生40名（4月21日(月)より募集）

●全講座32回（各週1～2回程度）
●本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ数講座を集中して学ぶ夏季合宿（前期）や、懇親会などの企画があります。

◎聴講生20名

シリーズを問わず、自由に講座が選べる12枚綴りの聴講チケットがあります。

●費用

◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要）

受講料…前期：3万円、後期：3万円

●前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。

◎聴講生 聴講料 回数券…15,000円

●聴講料納入と引き換えに12枚綴りの聴講チケットをお渡します。

●1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。

●2014年度前期の聴講チケットは、後期にも使用できます。

◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき）

●本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。

●申込方法

●所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。

●注意事項

●HOWSゼミナールについては、会計が異なります。

●講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。